

企画展「高島の歴史と文化」 開催報告

《開催期間》 平成28年9月10日(土)
～ 9月25日(日)

《開場時間》 9:00～17:00

《会場》 藤樹の里文化会館 第1展示室

《開催趣旨》

これまで文化財課では、市内3資料館での展示、広報誌への掲載、講座、見学会などで、高島市の歴史や文化の普及、発信に努めてきましたが、まだまだ貴重な文化財の価値や魅力が十分に多くの市民に伝えられているとは言い難く、特に実物資料の展示については、資料館運営体制の見直し等から、機会が少なくなっています。

このため、日頃は収蔵庫等に保管され、公開される機会がない文化財を市中央部の藤樹の里文化芸術会館で一堂に展示し、多くの人が高島市の歴史と文化の一端に触れることができる機会を提供します。

《5つの展示構成》

①. 発掘された高島の文化

朝鮮半島との関わりがうかがわれる南市東遺跡の出土遺物や西万木遺跡出土の中国からの舶来品等を展示し、大陸から高島にやってきた文化を紹介。

②. 人々の信仰と祈り

古くから信仰や祈りの対象となってきた文化財を紹介。

③. 大溝城下町の形成

江戸時代を通じて大溝の地を領有した分部家の歴代領主と城下の特徴を古絵図等で紹介。

④. 暮らしと文化

高島を代表する生活文化資料として、朽木の木地屋道具とその製品、高島硯の製造用具を紹介。

⑤. 高島市の水辺景観

国の重要文化的景観、そして日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」にも含まれる高島市の水辺景観を写真パネルやDVDで紹介。

《主な展示品》

○南市東遺跡・下五反田遺跡出土品

5世紀前半から中頃に渡来系の人々によって営まれた拠点集落遺跡。最大の特徴は、古墳時代中期では全国的に最も早い段階で竪穴建物内にカマドを設置していることと、朝鮮半島南部との交流を示す韓式系土器や初期須恵器が出土することです。



初期須恵器

○西万木遺跡出土品

安曇川右岸下流域の扇状地末端に展開した遺跡で、バイパスや大型店舗建設に伴い発掘調査が実施されました。中世後期(15～16世紀)の在地領主層の屋敷跡で、当時「唐物」と呼ばれ珍重された中国明代の銅製の花瓶や、青磁・白磁・朝鮮王朝陶磁などの舶来品の茶入・茶碗・銅製花瓶などが出土しました。



銅製の花瓶

○寶幢院・地蔵十王図(市指定有形文化財)

室町時代の製作と考えられ、21幅からなります。今回はそのうち7幅を展示。地獄において亡者の罪業を裁断する10人の王と、地獄の様子等が描かれます。地蔵盆等の時期にお寺で行なわれる、人々に地獄の恐ろしさを伝える絵解きに用いられたと考えられます。



○大溝城下古絵図

寛文4年(1664)に書かれたもので、分部氏統治時代の大溝城下の様子を伝えています。城跡周辺の内湖や城下町の水路等が鮮明に描かれ、地形や町並みの変化を探る上で貴重な資料といえます。縦105センチ、横145センチというかなりの大きさのため、市内の資料館の展示ケースでは展示が難しく、今回、久しぶりの公開となりました。



○朽木の木地屋用具と製品（県指定有形民俗文化財）

高島市朽木の麻生、古屋、岩瀬、能家、宮前坊などの各所には、かつて轆轤師、塗師屋、檜物師、杓子師などの木地屋が点在し、昭和の初めころまでは生産が行なわれていました。製品には盆・膳・椀・鉢・鉢・片口銚子などがあり、今回は製品の一部と製作用具も展示しました。

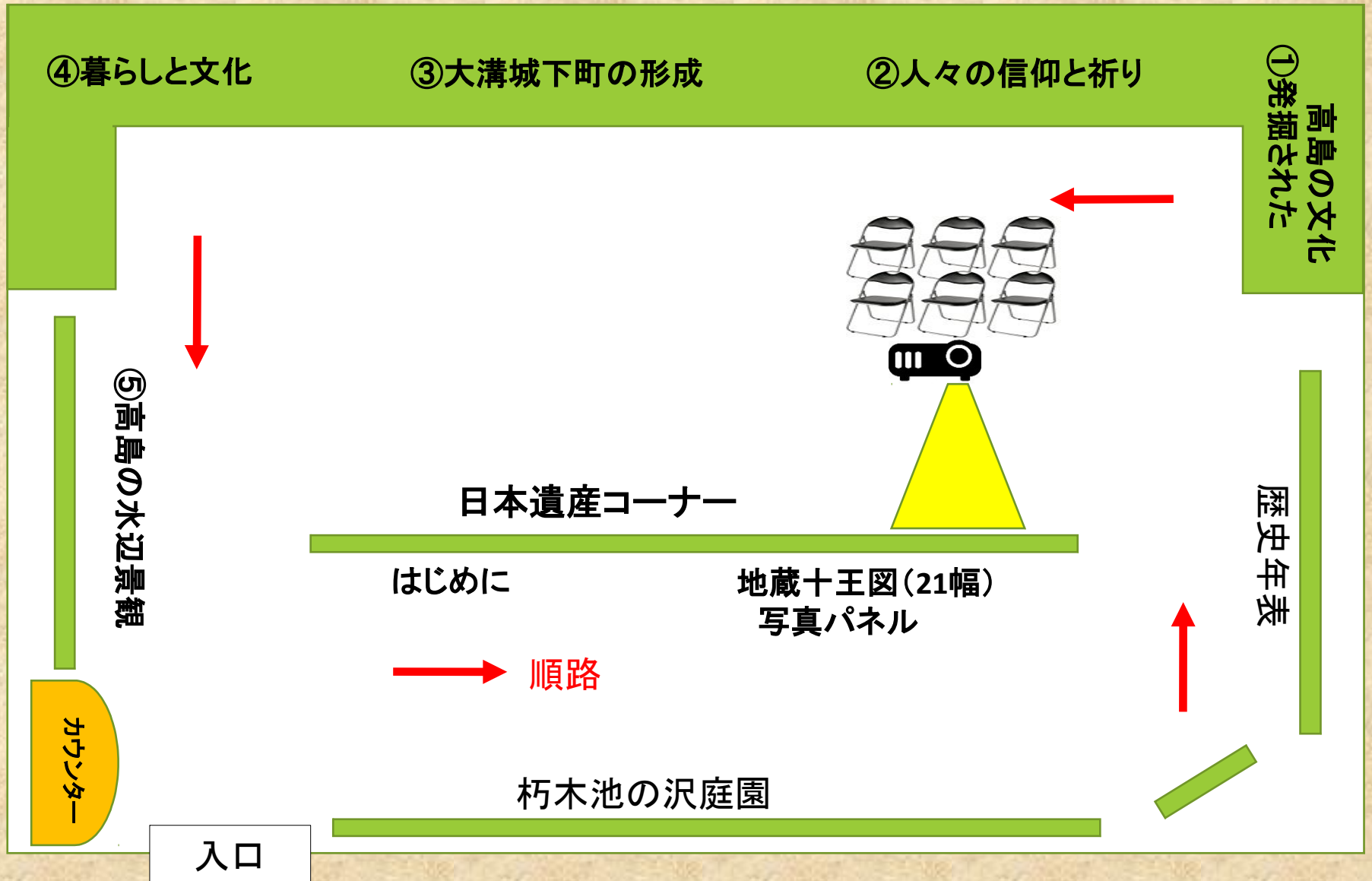


朽木盆



片口銚子

◆ 展示会場レイアウト



○ 会場入り口付近では、開催の趣旨と平成26年に市の指定文化財になった地蔵十王図21幅の写真パネル、また、右手の壁には平成24年に国の名勝に選定された朽木池の沢庭園を紹介しました。



- 会場内には高島の歴史年表を掲示して、展示をご覧いただく方に、歴史の流れや展示品の作成年代の背景が分かるように工夫しました。



○会場内の展示の様子 (② 人々の信仰と祈り)



○会場内の展示の様子（④ 暮らしと文化）



○会場内の展示の様子（⑤ 高島市の水辺景観）



- 展示室中央に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」紹介コーナーを設け、日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会が作成した高島市の日本遺産を紹介する映像が見られるようにしました。



《入場者・アンケート結果等》

○会期中の来場者 : 約820人 (会場の入口センサーによるカウント数)

○来場者アンケート回収数 : 46枚

○主な意見

- ・ふる里の昔が分かった。これからもいろいろしてほしい。(朽木出身・60歳代)
- ・市内の歴史を今回の展示品を通じて少し知ることができた。今後もこのような企画を継続してやっていただくことを希望する。(市内在住・70歳代)
- ・もう少し的を絞って、今回の各テーマを1回の展示で詳しく紹介してほしい。(守山市在住・80歳代)
- ・高島市の年表で、祖父母以前からのつながりを感じられた。意外と知っている歴史上の人物の関わりがあったりして少々驚いた。(市内在住・40歳代)
- ・歴史の宝庫高島を今後も知りたい。(市内在住・60歳代)

《資料館・今後の企画展計画》

◆ 高島歴史民俗資料館

企画展「戦国時代の分部氏」

期間：平成28年10月22日(土)～11月27日(日)

内容：大溝藩主分部氏が大溝に入部する以前、本拠地伊勢時代の文書等を紹介する。

企画展「古雛展」

期間：平成28年2月～3月

内容：市民から寄贈をうけた大正～昭和初期のひな人形を展示。

◆ 朽木資料館

企画展「古写真とイラストで見る高島市の原風景」

期間：平成28年10月15日(土)～11月20日(日)

内容：『朽木村史』編さんに伴い作成されたイラストや収集した古写真を展示。
。

《まとめ》

- 現在、市内には常時開館をしている高島歴史民俗資料館と、期間開館および予約開館をしている朽木資料館・マキノ資料館があるが、いずれも展示場所に限界があり、また、ガラスケースや空調等の設備も整っていないため、重要な指定文化財等の展示は難しい。
- 今回の展示会の来場者アンケート等では、継続した企画展の開催や、普段は見ることのできない文化財の展示を望む多くの声が届いた。



高島市の規模、文化財の数に見合った展示、
収蔵施設が必要。

- ★ 来年度以降も、多くの方に高島市の貴重な文化財を紹介する機会を設けることができるよう、企画展の開催や文化財の特別公開等を検討していきたい。